

事務事業名	水資源・水環境保全対策事業	事業期間	1974 ~	年度	係内番号	04
担当部署	市民環境部	環境課	環境保全係	連絡先	262	

政策番号	03	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	環境基本計画	0103	豊富で良質な水資源の保全		
			基本計画②	01	環境基本計画	0103	豊富で良質な水資源の保全		
			実行計画	01	環境基本計画	0103	豊富で良質な水資源の保全		

予算事業名	水資源・水環境保全対策事業	会計コード	01	款	04	項	01	目	06	事業	05
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
茅野市生活環境保全条例及び茅野市地下水資源利用の適正化に関する要綱に基づき地下水の搾取を規制し、枯渇や地盤沈下等の防止を図る。また、定期的に市内の地下水や湧水の状況を調査することにより、貴重な資源である地下水及び湧水の保全を図る。
(※) 2020年度に予算事業名を「地下水等調査事業費」から変更した。

現状と背景
(どうして)
茅野市は八ヶ岳の自然に恵まれ、最も清らかな水が得られる最上流域に位置しており、豊富で良質な水資源を有している。この自然のもたらす恩恵を永遠に享受できるように水資源について規制すること、また現状を把握する必要がある。

目的
対象
受益者
(誰のために)
市民
対象
(直接働きかける)
地下水利用者
意図
(どんな状態にしたいか)
市民が茅野市の豊富な水資源による恩恵を将来にわたって享受できるようにする。

手段・方法
(どうやって)
井戸掘削にあたっては許可申請又は届出が必要となる。吐出口の断面積6㎡以上の井戸については毎月の揚水量の報告を求める。
14か所の観測用井戸の水位測定及び36か所の湧水量測定により地下水、湧水の定期的な調査を行う。
数年ごとに地下水総合調査を実施し、市内の水資源の状況を把握する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの				指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	井戸の地下水位測定	実施率	%	実施数/調査井戸数	100		
	2	湧水量調査	実施率	%	実施数/調査湧水数	100			
	3								
	変更履歴								
成果指標	成果・効果は何？				指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	データの収集	収集率	%	収集箇所/調査箇所	100			
	2								
	変更履歴								

実施状況	項目		単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)		円	29,098	5,665	87,000	
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円						
活動指標	実施率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	
	実施率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
	成果指標	収集率	目標	%	100	100	100	
実績			%	100	100			
達成率			%	100.00	100.00	-	-	
-		目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		
備考	R2(2020)～事業名変更							

事務事業名	水資源・水環境保全対策事業	事業期間	1974 ~	年度	係内番号	04
担当部署	市民環境部	環境課	環境保全係	連絡先	262	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		予定していた調査は全て実施したため目標を達成できた。	予定していた調査は全て実施したため目標を達成できた。		
価値（CHECK）	成果	地下水位測定 昨年に比べ大きな変動はなし。 湧水量調査 全体の湧水量は昨年に比べ微増。昨年に比べ顕著に湧水量が減少した地点が2箇所あった。	地下水位測定 昨年に比べ大きな変動はなし。 湧水量調査 全体の湧水量は昨年に比べ微増。昨年に比べ顕著に湧水量が減少した地点が1箇所あった。			
	総合評価課題	湧水量調査については、収集データにバラつきがあるので計測場所・方法の確立、精度向上が必要である。	湧水量調査については、収集データにバラつきがあるので計測場所・方法の確立、精度向上が必要である。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容	調査については経過を見ていくことが必要であり、今後も継続が必要と考える。調査結果の精度向上のために、計測場所・方法の確立が必要である。また、専門業者による調査も検討していく必要がある。	調査については経過を見ていくことが必要であり、今後も継続が必要と考える。計測結果の精度向上のために、計測場所・方法の確立が必要である。また、専門業者による調査も検討していく必要がある。			
作成担当者	笠原 直弘	朝倉 太一				
最終評価責任者	平沢 幸人	小池 俊正				
最終評価年月日	令和元年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	里山づくり支援事業	事業期間	2004 ~	年度	係内番号	02
担当部署	市民環境部	環境課	環境保全係	連絡先	263	

政策 番号	03	基本計画①	01	環境基本計画	0102	健全な自然環境に寄与する森林、農地の保全	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高	
		基本計画②	01	環境基本計画	0602	環境学習の推進			
		実行計画	01	環境基本計画	0102	健全な自然環境に寄与する森林、農地の保全			
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称			
予 算 事 業 名	里山づくり支援事業費				会計コード	01 款 04 項 01 目 06 事業 03			
事 務 事 業 の 概 要 (簡潔にわかりやすく)	市民の森や里山づくり推進地域での活動を支援し、里山づくりを推進する。								
	近年、里山は人とかかわりが減り、手入れがされなくなり荒れてしまった場所が多く、公共事業や宅地開発などにより減少しているため、身近な自然環境である里山を保護、保全、再生及び活用し、里山を将来の世代に残していくことが必要である。								
	多くの市民、森林所有者、事業者、滞在者が市民の森や里山づくり推進地域での里山づくりに関わることで、身近な里山保全のモデル地域を形成して活動を継続していく。								
目 的	対 象	市民・森林所有者・事業者・滞在者							
	意 図	多くの市民、森林所有者、事業者、滞在者が里山づくりへの取組に関わることを目指している。そのために地域での里山づくりに取り組む団体が、事業をスムーズに推進できるように必要な支援を継続していく。							
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	多くの市民、森林所有者、事業者、滞在者が里山づくりへの取組に関わることを目指している。そのために地域での里山づくりに取り組む団体が、事業をスムーズに推進できるように必要な支援を継続していく。								
評 価 指 標 の 作 成	活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値	
		1	市民の森に関する行事開催	市民の森行事数	回	行事を開催した回数		3	
		2	里山づくり推進地域での行事開催の支援	推進地域行事数	回	行事を開催した回数		2	
		3	参加者アンケートの実施	アンケート回数	回	アンケートの実施回数		5	
	変 更 履 歴	指標：～H29年度（団体の発足数、里山づくり推進地域の指定面積、市民の森を創る会会議回数） →H30年度～（市民の森に関する行事開催、里山づくり推進地域での行事開催支援、参加者アンケートの実施）							
	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値	
		1	里山づくり行事参加人数	行事参加者	人	上記行事への参加延べ人数		205	
		2	里山づくり行事の満足度	里山行事満足度	%	行事に満足した数／アンケート回答数		80	
		変 更 履 歴	指標：～H29年度（推進地域の森林整備率、市民の森行事参加者数） →H30年度～（里山づくりイベント参加人数、里山づくり行事の満足度）						

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	6,007,363	6,055,155	5,755,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	活 動 指 標	市民の森行事数	目標	回	3	3	3		
			実績	回	3	2			
		達成率	%	100.00	66.67	-	-	-	
		推進地域行事数	目標	回	2	2	2		
			実績	回	2	2			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-		
	ア ン ケ ー ト 回 数	目標	回	1	5	5			
		実績	回	1	4				
		達成率	%	100.00	80.00	-	-	-	
	成 果 指 標	行 事 参 加 者	目標	人	205	205	205		
実績			人	273	199				
達成率			%	133.17	97.07	-	-		
里 山 行 事 満 足 度		目標	%	80	80	80			
	実績	%	89	96					
	達成率	%	111.43	120.13	-	-			
備 考	H27(2015)～「里山づくり推進地域支援事業(02040122)」、「市民環境団体活動支援事業(02040129)」を統合								

事務事業名	里山づくり支援事業	事業期間	2004 ~	年度	係内番号	02
担当部署	市民環境部	環境課	環境保全係	連絡先	263	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （動指） （要標） （因分） （析）		計画どおりに行事を実施して、行事参加者数の目標値を大きく超えることができた。	行事参加者から行事への高い満足度を得ることができた。 原木の確保をすることができなかったため市民の森行事内の1つであるキノコの菌打ち講習会を開催することができなかった。		
価値（CHECK）	成果	里山の近隣小学校と連携を密にしたことが、目標以上の参加者の確保につながった。	里山での植樹体験や間伐材を使用したパッジづくり、紙芝居風の里山の重要性の紹介などを通じて、行事参加者に里山について関心を持ってもらうことができた。			
	総合評価 課題	里山づくりの担い手の育成に苦慮している。行事参加を通じて、里山づくりの担い手育成に繋げていくことが課題である。	里山づくりの担い手の育成に苦慮している。行事参加を通じて、里山づくりの担い手育成に繋げていくことが課題である。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容 策び容	里山づくりの担い手を育成する方針は以下のとおりである。 ①まずは体験して里山に親しむ。 ②次に里山保全の現状や重要性を学ぶ。 ③最終的に里山づくり実践の担い手になる。 そのために市民団体の協力を得ながら、①の体験事業を毎年継続していきたい。その流れの中で②の啓発を図り、③に繋げていく方を模索し続けていく。	里山づくりの担い手を育成する方針は以下のとおりである。 ①まずは体験して里山に親しむ。 ②次に里山保全の現状や重要性を学ぶ。 ③最終的に里山づくり実践の担い手になる。 そのために市民団体の協力を得ながら、①の体験事業を毎年継続していきたい。その流れの中で②の啓発を図り、③に繋げていく方を模索し続けていく。			
作成担当者	朝倉 健太	朝倉 太一				
最終評価責任者	平沢 幸人	小池 俊正				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				